

目的 インドネシアは大小さまざまな島からなり、その数は約2000ともいわれている。それぞれの島に居住している民族も約200種族に及ぶといわれ、島嶼文化を形成している。したがってインドネシアの衣文化を一括して表現することはむづかしい。高度な染織技術をもつバリ島の衣生活について考察を試みる。

調査内容 1 男性の衣服について、2 女性の衣服について、3 染織と形態について、4 信仰とのかかわり合いについて。

結果 1. バリ島に巻衣形態が伝承される理由 a) 木綿の物性による、b) 単純な形態でなじみやすいこと、c) 産子という日常生活に適している。

2. 男性の衣服として a) 前下り着装は日常生活に基いた動作適応性と単純な形態の布にオシャレ感覚、すなわち高度な美的感覚が示されている。b) 頭飾りと共に結びの表現が装飾化され、前下り着装は禪の名残りではなかろうか。

3. 女性の衣服として a) 体型を美的に保つ着装法である。b) 男女共同形の布を用いて巻きつけ方に性差を示す。

4. 信仰とのかかわり合いとしては日常生活に祈りを抱いた日々存の衣服を呪具的に用いたり、祈りをこめた構成技法を見出すことができなかつた。

5. 染織とのかかわり合いとしては、技術的にかなり発達した地域性と、木綿という身近にある布をふんだんに使う着装法が浸透し、教断法の未発達のまま現在に伝承されたと考えられる。